

Message Manual

by Lars Magne Ingebrigtsen

This file documents Message, the Emacs message composition mode.

このファイルは Emacs のメッセージ作成モードである Message に関する説明文書です。

Copyright © 1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007 Free Software Foundation, Inc.

Permission is granted to copy, distribute and/or modify this document under the terms of the GNU Free Documentation License, Version 1.2 or any later version published by the Free Software Foundation; with no Invariant Sections, with the Front-Cover texts being “A GNU Manual”, and with the Back-Cover Texts as in (a) below. A copy of the license is included in the section entitled “GNU Free Documentation License”.

この文書を、フリーソフトウェア財団発行の GNU フリー文書利用許諾契約書第 1.2 版またはそれ以降の版が定める条件の下で複製、配布、あるいは変更することを許可します。変更不可部分は指定しません。“A GNU Manual”は表表紙テキスト、以下の (a) は裏表紙テキストです。この利用許諾契約書の複写は“Emacs manual”の「GNU フリー文書利用許諾契約書」という章に含まれています。

(a) The FSF’s Back-Cover Text is: “You have freedom to copy and modify this GNU Manual, like GNU software. Copies published by the Free Software Foundation raise funds for GNU development.”

(a) FSF の裏表紙テキスト:「あなたにはこの GNU Manual を GNU ソフトウェアのように複製したり変更する自由があります。複製はフリーソフトウェア財団によって出版されました。(フリーソフトウェア財団は) GNU の開発のために必要な資金を集めています。」

This document is part of a collection distributed under the GNU Free Documentation License. If you want to distribute this document separately from the collection, you can do so by adding a copy of the license to the document, as described in section 6 of the license.

この文書は「GNU フリー文書利用許諾契約書」に基づいて配布された収集著作物の一部です。もしあなたがこの文書を収集著作物から分離して配布したいときは、契約書の第 6 章に記述されているように、文書に契約書の複写を付加することによって、行なうことができます。

Message

Gnus のすべてのメッセージの作成 (メールとニュースの両方) は、メッセージモードのバッファで行ないます。

Message は Gnus とともに配布されます。このマニュアルに対応する Gnus の版は No Gnus v0.6 です。

1 インターフェース

プログラム (または人) がメッセージに反応したいとき—返答、フォローアップ、転送、取り消しをしたいとき—そのプログラム (または人) はちょうどそのメッセージがあるバッファーにポイントを置いて、必要な命令を呼び出すはずで、すると Message は、適切なヘッダーで満たした新しい message モードのバッファーを出現させてくれるので、利用者はメッセージを送る前にそれを編集することができます。

Message モードのツールバーをカスタマイズすることができます。M-x *customize-apropos RET message-tool-bar* を試してみてください。この機能を利用できるのは Emacs だけです。

1.1 新しいメールメッセージ

`message-mail` 命令は、新しいメッセージバッファーを出現させます。

二つの省略可能な引数が受け付けられます: 最初のものは To ヘッダーとして、二番目は Subject ヘッダーとして使われます。もしこれらが nil だったら、それらの二つのヘッダーは空になります。

1.2 新しいニュースメッセージ

`message-news` 命令は、新しいメッセージバッファーを出現させます。

この関数は二つの省略可能な引数を受け付けます。最初のものは Newsgroups ヘッダーとして、二つ目のものは Subject ヘッダーとして使われます。もしこれらが nil だったら、それらの二つのヘッダーは空になります。

1.3 返答

`message-reply` 関数は、現在のバッファーにあるメッセージへの返答のメッセージバッファーを出現させます。

Message は返答がどこに行くか (see Section 5.1 [Responses], page 35) を標準の方法で決定しますが、`message-reply-to-function` 変数をいじくることによって、あなたの必要に応じてその振る舞いを変えることができます。

From の代わりに Sender に返答を送りたいのであれば、このようなことができます:

```
(setq message-reply-to-function
  (lambda ()
    (cond ((equal (mail-fetch-field "from") "somebody")
           (list (cons 'To (mail-fetch-field "sender"))))
          (t
           nil))))
```

この関数は、返答しようとする記事がヘッダー部分に狭められたバッファーで呼ばれます。

ご覧のように、この関数はリストを返さなければなりません。この場合、To ヘッダーがそうなるべきだと判断すれば ((To . "Whom")) を返します。そうでなければ単に nil を返すだけで、To ヘッダーを決定する標準の方法が使われるでしょう。

リストのそれぞれの要素は cons セルです。CAR はヘッダーの名前 (例えば Cc) で、CDR はヘッダーの値 (例えば 'larsi@ifi.uio.no') です。これらすべてのヘッダーは、送出されるメールのヘッダーに挿入されます。

1.4 広い返答

`message-wide-reply` は、現在のバッファにあるメッセージへの広い返答のメッセージバッファを出現させます。「広い返答」とは To、From (または Reply-to) および Cc ヘッダーに挙げられているすべての人たちに届く返答です。

Message は返答がどこに行くかを決定するために標準の方法を使いますが、`message-wide-reply-to-function` をいじくることによって、振る舞いをあなたの必要に合うように変更することができます。それは `message-reply-to-function` と同じやり方で使われます (see Section 1.3 [Reply], page 3)。

正規表現 (または正規表現のリスト) `message-dont-reply-to-names` に合致するアドレスは Cc ヘッダーから取り除かれます。nil にすると、あなたの名前だけが取り除かれます。

`message-wide-reply-confirm-recipients` が非-nil だったら、複数の受取人に返答したいかどうかの確認を求められます。デフォルトは nil です。

1.5 フォローアップ

`message-followup` 命令は、現在のバッファにあるメッセージにフォローアップするためのメッセージバッファを出現させます。

Message はフォローアップがどこに行くかを標準の方法を使って決定しますが、`message-followup-to-function` をいじくることによって、あなたの必要に合うように振る舞いを変更することができます。それは `message-reply-to-function` と同じやり方で使われます (see Section 1.3 [Reply], page 3)。

`message-use-followup-to` 変数は Followup-To ヘッダーに関して何をするか (訳注: To ヘッダーをどうやって決定するか) を指定します。それが use だったら、いつもその値を使います。もし ask だったら (これがデフォルトです)、その値を使うかどうかを尋ねます。もし t だったら、その値が (文字通り) 'poster' でない限り、その値を使います (訳注: `message-use-followup-to` の値が t で、Followup-To ヘッダーの値が 'poster' だったら、それを使うかどうかを尋ねます。なお、実際に To ヘッダーに使われるのは、Mail-Reply-To、Reply-To および From ヘッダーの中で、最初に見つかったメールアドレスです)。nil であれば、値を使いません。

1.6 ニュースを取り消す

`message-cancel-news` 命令は、現在のバッファにある記事を取り消します。

`message-cancel-message` の値が取り消し記事の本文に挿入されます。デフォルトは 'I am canceling my own article.' です。

Message がニュース記事をポストするとき、デフォルトで Cancel-Lock ヘッダーを挿入します。これはあなた自身が書いたメッセージをあなただけが取り消すことができることを保証する暗号化されたヘッダーで、すぐれものです。欠点は、'.emacs' ファイル (Gnus が秘密の cancel lock パスワード (最初にこの機能を使うときに自動的に生成されます) を格納する場所) をなくしてしまうと、メッセージの取り消しができなくなってしまうことです。自分でパスワードを管理したいならば、以下のようなものを '~/.gnus.el' ファイルに入れて下さい:

```
(setq canlock-password "geheimnis"
      canlock-password-for-verify canlock-password)
```

そのヘッダーを挿入するかどうかは、`message-insert-canlock` 変数によって制御されます。

まだ多くのニュースサーバーが Cancel-Lock ヘッダーを重要視していませんが、将来は変わる事が期待されます。

1.7 ニュース記事の置き換え

`message-supersede` 命令は、現在のバッファにあるメッセージを置き換えるためのメッセージバッファを出現させます。

`message-ignored-supersedes-headers` に合致するヘッダーは新しいメッセージバッファを出現させる前に取り除かれます。デフォルトは
`^Path:\\|^Date\\|^NNTP-Posting-Host:\\|^Xref:\\|^Lines:\\|^Received:\\|^X-From-Line:\\|^X-Trace:\\|^X-Complaints-To:\\|^Return-Path:\\|^Supersedes:\\|^NNTP-Posting-Date:\\|^X-Trace:\\|^X-Complaints-To:\\|^Cancel-Lock:\\|^Cancel-Key:\\|^X-Hashcash:\\|^X-Payment:\\|^Approved:'` です。

1.8 転送

`message-forward` 命令は、現在のバッファにあるメッセージを転送するためのメッセージバッファを出現させます。接頭引数が与えられると、ニュースを使って転送します。

`message-forward-ignored-headers`

この正規表現に合致するすべてのヘッダーが、転送されるメッセージから削除されます。

`message-make-forward-subject-function`

転送されるメッセージの、表題ヘッダーを作るために呼ばれる関数のリストです。前の関数で作られた表題は、続くそれぞれの関数に渡されます。

提供されている関数は次の通りです:

`message-forward-subject-author-subject`

記事の出どころ (著者かニュースグループ) を、括弧 ([...]) で囲んで表題の前に付けます。

`message-forward-subject-fwd`

記事の表題の前に 'Fwd:' を置きます。

`message-wash-forwarded-subjects`

この変数が `t` だったら、以前に転送されたことを示す痕跡 ('Fwd:', 'Re:', '(fwd)' のようなもの) を、新しい表題を組み立てる前にはぎ取ります。デフォルト値は `nil` です。

`message-forward-as-mime`

この変数が `t` (デフォルト) だったら、転送されるメッセージは MIME RFC822 パートとして埋め込まれます。`nil` だった場合は、以前に MIME に対応していなかった Gnus がしたように、転送されるメッセージのコピーが、ただ単に新しいメッセージに埋め込まれます。

`message-forward-before-signature`

非-`nil` だったら署名の前に、それ以外だったら後に、転送するメッセージを置きます。

1.9 再送

`message-resend` 命令は、利用者にアドレスを入力することを要求して、現在のバッファにあるメッセージをそのアドレスに再送します。

正規表現 `message-ignored-resent-headers` に合致するヘッダーは、メッセージを送る前に取り除かれます。

1.10 弾かれたメールメッセージ

`message-bounce` 命令は、もし現在のバッファに弾かれたメールメッセージがあったら、弾かれたことの情報を取り除いたメッセージバッファを出現させます。「弾かれたメッセージ」とは、一般には `mailer-daemon` から配送不可として突き返されたメールです。

正規表現 `message-ignored-bounced-headers` に合致するヘッダーは、バッファを出現させる前に取り除かれます。デフォルトは `‘^\\(Received\\|Return-Path\\|Delivered-To\\)’` です。

1.11 メーリングリスト

メーリングリストに投稿する際に、その投稿に対するフォローアップ記事を指定した場所に直接送ってもらいたいことがあります。`Mail-Followup-To` (MFT) はまさにこれを可能にするために作られました。これが役に立つ場合の例を三つ:

- メーリングリストに投稿する人は、投稿した人ではなく、メーリングリストだけに返答を送るべきであることを、MFT を使って表現することができます。これは、投稿者がすでにそのメーリングリストを購読している場合が該当します。
- メーリングリストに投稿する人は、メーリングリストだけでなく投稿した人にも返答を送るべきであることを、MFT を使って表現することができます。これは、投稿者がそのメーリングリストを購読していない場合が該当します。
- メッセージが複数のメーリングリストに投稿されている場合に、それ以降の議論を一つのメーリングリストだけで行なうことを指定するためにも MFT を使うことができます。議論がいくつかのメーリングリストで行なわれてしまうとばらばらになりやすいし、フォローするのが難しくなってしまいますから。

Gnus は他の人のメッセージにある MFT ヘッダーを尊重します (すなわち、だれか別の人の投稿にフォローアップするとき)。また、外に出て行くメッセージのための、道理にかなった MFT ヘッダーを作成することのサポートも提供します。

1.11.1 正しい MFT ヘッダーを自動的に作る

投稿する記事の MFT ヘッダーを Gnus が自動的に作ってくれるようにするための第一歩は、購読しているメーリングリストのアドレスのリストを Gnus に与えることです。一つ以上の方法でこれを行なうことができます。以下の変数が手ごろでしょう。

`message-subscribed-addresses`

これは購読しているメーリングリストのアドレスのリストでなければなりません。デフォルト値は `nil` です。例:

```
(setq message-subscribed-addresses
      '("ding@gnus.org" "bing@noose.org"))
```

`message-subscribed-regexps`

これは購読しているメーリングリストのアドレスを示す正規表現のリストでなければなりません。デフォルト値は `nil` です。上記と同じ結果を成し遂げたい場合の例:

```
(setq message-subscribed-regexps
      '("\\(ding@gnus\\)\\|\\(bing@noose\\)\\.org"))
```

`message-subscribed-address-functions`

これは MFT ヘッダーの値を決めるために (一度に一回!!) 呼ばれる関数のリストです。それらの関数には引数がないことを忠告しておきましょう。デフォルト値は `nil` です。

Gnus ではこの変数のために定義された、良い関数の候補があります。関数 `gnus-find-subscribed-addresses` は、`subscribed` グループパラメーター (see section “グループパラメーター” in *The Gnus Manual*) が非-`nil` に設定されているグループに対応するアドレスのリストを返します。こんなふうに使って下さい。

```
(setq message-subscribed-address-functions
      '(gnus-find-subscribed-addresses))
```

`message-subscribed-address-file`

あなたはもしかしたら酔狂な人 (原典: one organized human freak) で、購読しているすべてのメーリングリストのアドレスのリストを別ファイルで持っているかもしれませんが! そうならば、単にこの変数をそのファイル名にすることによって、人生は善きものになるでしょう。

上記の複数の変数を使うことができます。それらの値はすべて「加えられ」ます。何らかの使える方法で。:-)

さあ用意ができました。いつものようにメッセージの作成を始めましょう。そしていつも通りに送信しましょう。メッセージが送出される直前に Gnus の MFT を作る仕掛けが動作して、メッセージがすでに MFT フィールドを持っているかどうかを調べます。もしそれがあれば、それは放っておかれます (その場合にそれが空っぽだったら、そのフィールドが削除されて自動生成されたもので置き換えられることはありません。これは個々のメッセージについて MFT の生成を禁止させる基本です)。無かった場合は受取人のアドレスのリスト (To: と Cc: ヘッダーにある) を、それらの一つが購読しているメーリングリストのアドレスかどうかを調べます。それらのどれもがメーリングリストのアドレスでなかったら、MFT は作られません。それ以外の場合には MFT がヘッダーに付け加えられ、その値は To: と Cc: にあるすべてのアドレスに設定されます。

うーむ。そうするとあなたは「購読していないメーリングリストにメールを送信するときはどうなるの? 私は余分のコピーが欲しいことを MFT で言いたい」と尋ねますね (これは MFT が無い場合と同様に処理されるでしょう。しかし、`to-address` で設定された他の誰かより優先させるために、明示的な MFT を使うことができます)。関数 `message-generate-unsubscribed-mail-followup-to` が役に立つかもしれませんが。これはデフォルトで `C-c C-f C-a` に割り当てられています。どんな場合でも、あなたは自分が選んだ MFT を挿入することができます; それを始めるのに `C-c C-f C-m` (`message-goto-mail-followup-to`) が助けてくれるでしょう。

1.11.2 MFT 投稿の尊重

メーリングリストに投稿された記事にフォローアップするとき、その記事が MFT ヘッダーを持っていたら、Gnus の動作は変数 `message-use-mail-followup-to` の値によって決まります。この値は以下のどれかになります:

<code>use</code>	常に MFT を尊重します。フォローアップ記事の To: と Cc: ヘッダーは、元の記事の MFT ヘッダーから引き出します。これがデフォルトです。
<code>nil</code>	常に MFT を尊重しません (完璧に無視)。
<code>ask</code>	どうするかを尋ねます。

MFT を尊重することは良いネチケット (netiquette) であると考えられています。どこにフォローアップする必要があるかを、メッセージを投稿した人はあなたよりよく知っているはずですから。

2 命令

2.1 バッファーに入る

何か他のメッセージに回答するときは、たいていメッセージバッファーで書き上げますよね。Message は多くの引用文を扱ったり、署名を削除したり、文章の整形をしたり、あるいはあなたが使っている設定に依存するいろんなことをします。Message は普通はうまく動作しますが、ときどき間違えもします。それらの間違いを利用者が正すことができるように、Message はあるまとまった動作を自動的に行なう前にアンドウ (やり直し) の境界を設定します。それによって、ほんの何回かアンドウ・キー (通常 C-) を押せば、未編集のメッセージに戻すことができます。

2.2 ヘッダー命令

2.2.1 ヘッダーに移動するための命令

以下の命令は対象になっているヘッダーに移動します。存在しなければ挿入されます。

C-c ? メッセージモードの説明を表示します。

C-c C-r C-t
 To ヘッダーに行きます (message-goto-to)。

C-c C-f C-o
 From ヘッダーに行きます (message-goto-from)。 (キーバインド中の“ o ”は創作者 (Originator) に由来しています。)

C-c C-f C-b
 Bcc ヘッダーに行きます (message-goto-bcc)。

C-c C-f C-f
 Fcc ヘッダーに行きます (message-goto-fcc)。

C-c C-f C-c
 Cc ヘッダーに行きます (message-goto-cc)。

C-c C-f C-s
 Subject ヘッダーに行きます (message-goto-subject)。

C-c C-f C-r
 Reply-To ヘッダーに行きます (message-goto-reply-to)。

C-c C-f C-n
 Newsgroups ヘッダーに行きます (message-goto-newsgroups)。

C-c C-f C-d
 Distribution ヘッダーに行きます (message-goto-distribution)。

C-c C-f C-o
 Followup-To ヘッダーに行きます (message-goto-followup-to)。

C-c C-f C-k
 Keywords ヘッダーに行きます (message-goto-keywords)。

C-c C-f C-u
 Summary ヘッダーに行きます (message-goto-summary)。

C-c C-f C-i

‘high’ という値を持つ ‘Importance:’ ヘッダーを挿入します。このヘッダーは受信者にそのメッセージの重要性を知らせるために使われるものです。もしバッファーにすでにこのヘッダーがある場合は、RFC 1376 に準じた三つの値 ‘low’、‘normal’ および ‘high’ を循環させます。

C-c C-f C-a

講読していないメーリングリストに投稿する場合に見合った ‘Mail-Followup-To:’ ヘッダーを挿入します。講読していないメーリングリストに元記事を投稿するときは、‘Mail-Followup-To:’ ヘッダーに手で記入しなければなりません。内容は、普通はメーリングリストのアドレスとあなた自身のアドレスです。この関数はそのようなヘッダーを自動的に挿入します。これは現在のメールのバッファーから ‘To:’ ヘッダーの内容を抜き出し、それに現在の user-mail-address を追加します。

省略可能な引数 include-cc が nil ではない場合は、‘Cc:’ ヘッダーにあるアドレスも ‘Mail-Followup-To:’ ヘッダーに置かれます。

2.2.2 ヘッダーを変更するための命令

C-c C-o message-header-format-alist に従ってヘッダーを並べ替えます (message-sort-headers)。

C-c C-t フォローアップしようとするメッセージの Reply-To もしくは From ヘッダーを含む To ヘッダーを挿入します (message-insert-to)。

C-c C-n 返答しようとする記事の Followup-To もしくは、Newsgroups ヘッダーを反映した Newsgroups ヘッダーを挿入します (message-insert-newsgroups)。

C-c C-l メーリングリスト宛てだけにメッセージを送ります。To: と Cc: ヘッダーから、そのメーリングリスト以外のアドレスを削除します。

C-c M-n 開封確認要求を挿入します。(message-insert-disposition-notification-to)。もし受信者が RFC 2298 をサポートしていれば、彼女はそのメッセージを受け取ったことを知らせてくれるでしょう。

M-x message-insert-importance-high

‘high’ という値を持つ ‘Importance’ ヘッダーを (必要ならすでに存在するものを消去してから) 挿入します。

M-x message-insert-importance-low

‘low’ という値を持つ ‘Importance’ ヘッダーを (必要ならすでに存在するものを消去してから) 挿入します。

C-c C-f s 現在の ‘Subject’ ヘッダーを変更します。新しい ‘Subject’ を尋ねて ‘(was: <古い表題>)’ を追加します。そういう記事を受け取った人がさらに返信するときに、古い表題は削除することができます。message-subject-trailing-was-query (Section 3.1 [Message Headers], page 19) を見て下さい。

C-c C-f x クロスポストのために、対象グループとともに ‘FollowUp-To’ ヘッダーを設定し、その対象グループが ‘Newsgroups’ ヘッダーに存在しなかったらそこに追加し、かつ本文に注意書きを入れます。message-cross-post-default が nil になっているか、またはこの命令が接頭引付きで呼ばれると、‘Follow-Up’ ヘッダーが設定されるだけで、‘Newsgroups’ ヘッダーへの追加は行なわれません。注意書きを入れる関数は message-cross-post-note-function 変数で制御されます。

- C-c C-f t* 'To' ヘッダーの内容を 'Cc' か 'Bcc' ヘッダーの内容で置き換えます。('Cc' ヘッダーが無い場合に限って、代わりに 'Bcc' ヘッダーが使われます。)
- C-c C-f w* 初めはそのメッセージが広い返答のために作られたものでなかった場合でも、広い返答をしているように 'To' と 'Cc' ヘッダーを挿入します。
- C-c C-f a* 'X-No-Archive: Yes' をヘッダーに挿入して、本文に注意書きを入れます。ヘッダーと注意書きは `message-archive-header` と `message-archive-note` を使ってカスタマイズすることができます。接頭引数付きで呼ばれると、挿入するテキストを要求します。本文に注意書きを入れたくない場合は、`message-archive-note` を `nil` にして下さい。

2.3 移動

- C-c C-b* メッセージの本文の先頭に移動します (`message-goto-body`)。)
- C-c C-i* メッセージの署名に移動します (`message-goto-signature`)。)
- C-a* ヘッダーの値の先頭にいるときは行の先頭に移動し、そうでないときはヘッダーの値の先頭に移動します。(ヘッダーの値というのは、ヘッダー名およびコロンの後にあるものです。) この動作は変数 `message-beginning-of-line` をトグル切り替えることによって無効にすることができます。

2.4 挿入

- C-c C-y* 返答しようとしているメッセージをメッセージバッファに `yank` します (`message-yank-original`)。)
- C-c C-M-y* バッファ名を尋ねて、そのバッファの内容をメッセージバッファに `yank` します (`message-yank-buffer`)。)
- C-c C-q* `Yank` されたメッセージを折り返して耳を揃えます (`message-fill-yanked-message`)。警告: もし変なやり方で引用されていると、`yank` された文章をひどくぐちゃぐちゃにしてしまうかもしれません。もっとも、どんなものが安全かは、すぐにわかるでしょうけれど。とにかく、何が起きても `C-x u` (`undo`) が使えるのだから問題無いことだけは、覚えておいて下さい。
- C-c C-w* バッファの最後に署名を挿入します (`message-insert-signature`)。)
- C-c M-h* メッセージのヘッダーを挿入します (`message-insert-headers`)。)
- C-c M-m* 現在の記事のある領域を、それらを囲むためのタグで印を付けます。 `message-mark-insert-begin` と `message-mark-insert-end` を見て下さい。接頭引数を付けて使うと、`slrn` ふうの `verbatim` (文章を一言一句そのまま表す) 記号の対 ('#v+' と '#v-') を使います。(訳注: そういうメッセージを `Gnus` で表示すると、デフォルトではその領域が一つのパートとして扱われ、また強調表示されます。)
- C-c M-f* 現在の記事にファイルを挿入して、その領域を囲むためのタグで印を付けます。 `message-mark-insert-begin` と `message-mark-insert-end` を見て下さい。接頭引数を付けて使うと、`slrn` ふうの `verbatim` (文章を一言一句そのまま表す) 記号の対 ('#v+' と '#v-') を使います。(訳注: そういうメッセージを `Gnus` で表示すると、デフォルトではその領域が一つのパートとして扱われ、また強調表示されます。)

2.5 MIME

Message は MIME に対応した送信用のエージェントです。ふつう利用者は、MIME にするために何かする必要はありません。Message は自動的に Content-Type および Content-Transfer-Encoding ヘッダーを付加します。

利用者が MIME でマルチパートを使いたい最も一般的なものは、送出するメールに「添付」を付け加えることでしょう。これは `C-c C-a` 命令 (`M-x mml-attach`) で行なうことができ、その際ファイル名と MIME タイプが尋ねられます。

あなたの Emacs がドラッグ&ドロップをサポートしていれば、Message バッファにファイルをドロップすることもできます。変数 `mml-dnd-protocol-alist` で、Message バッファにファイルをドロップするときにどんなことを行なうかを指定します。変数 `mml-dnd-attach-options` は、ファイルをドロップするときにどの MIME オプションを指定したいかを制御します。それをリストにする場合、有効なオプションは `type`, `description` および `disposition` です。`disposition` は暗に `type` を含みます。`nil` だったらオプションを尋ねません。`t` にすると、オプションを指定するかどうかを尋ねます。

さらに MML 言語 (see section “MIME メッセージの作成” in *The Emacs MIME Manual*) を使えば、どんな複雑なマルチパートでも自由に作ることができます。

2.6 国際化ドメイン名

Message は IDNA に準拠した送信エージェントです。利用者は IDNA のために一般には何もする必要がありません。Message は From、To および Cc ヘッダーにある非-ASCII ドメイン名を自動的にエンコードします。

もっと IDNA が有名になるまでは、Message は実際にドメイン名を IDNA エンコードすべきかどうかの確認を求めることになっています。今のところは、利用者の幾人かはドメイン名に非-ASCII 文字を含むことができることに気づいていないかもしれないので、彼らが偶然に非-ASCII ドメイン名をタイプしてしまったときのために安全ネットを張っているわけです。

変数 `message-use-idna` は IDNA を使うかどうかを制御します。この変数が `nil` だったら IDNA エンコードは行なわれません。シンボル `ask` に設定されていると利用者は確認を求められます。また、`t` に設定されていると (IDNA が完全に利用可能ならば、それがデフォルトです)、自動的に IDNA エンコードが行なわれます。

実験的に IDNA エンコードを行ないたいならば、(エンコードされた非-ASCII ドメイン名を得るために) メッセージの編集集中に `M-x message-idna-to-ascii-rhs RET` をタイプして下さい。

この機能を使うには GNU Libidn (<http://www.gnu.org/software/libidn/>) をインストールしておかなければなりません。

2.7 セキュリティー

MML 言語を使うことによって、Message は電子署名された、または電子暗号化されたメッセージを作ることができます。Message (と言うか MML) は、現在 PGP (RFC 1991), PGP/MIME (RFC 2015/3156) および S/MIME をサポートしています。

2.7.1 署名と暗号化のコマンド

MIME パートに対してセキュリティーの操作を行なうための MML への指示は、以下のように署名の場合は `C-c C-m s` キーマップを使って、暗号化の場合は `C-c C-m c` キーマップを使って行ないます。

C-c C-m s s

S/MIME を使って現在のメッセージに電子署名します。

C-c C-m s o

PGP を使って現在のメッセージに電子署名します。

C-c C-m s p

PGP/MIME を使って現在のメッセージに電子署名します。

C-c C-m c s

S/MIME を使って現在のメッセージを電子暗号化します。

C-c C-m c o

PGP を使って現在のメッセージを電子暗号化します。

C-c C-m c p

PGP/MIME を使って現在のメッセージを電子暗号化します。

C-c C-m C-n

メッセージからセキュリティ関連の MML タグを削除します。

これらの命令は、その場でメッセージに署名したり暗号化するわけではなく、単にセキュリティのための適切な MML タグを挿入して、メッセージが実際に送信されるときにその動作を実行するように、MML エンジンに指示を与えるだけです。それらは他の仕事、例えば暗号化されたメールを送りたい相手の人の S/MIME の証明書を探して、取り寄せるようなことも行なうかもしれません。mml 解析エンジンが MML で書かれたメッセージを適切に MIME メッセージに変換するとき、セキュリティのためのタグは、パートまたはマルチパートのどちらかのタグで置き換えられます。メッセージが他の mml パートも含んでいる場合にはマルチパートのタグが使われ、他のパートが無い場合は単一のパートのタグが使われるでしょう。このようにして、署名される/暗号化されるマルチパートのメッセージに対し、メッセージ・モードは「正しいこと (登録商標)」(原文: the Right Thing (TM)) を行ないます。

署名そして特に暗号化はしばしば機密情報を送信するときに使われるので、メールが本当に署名または暗号化されることを確かめるための何らかの手段を必要とするでしょう。上記の署名/暗号化のための命令を実行した後でなら、*C-u C-c RET P* (mml-preview) を使うことによって生の記事を下見することが可能です。そうして、あなたの以前に大切だった人に関する、あるいは、この前の夜の変なパーティーで、あのおかしな身なりの人が実際にやったことに関するあなたの長い罵倒が、本当に暗号化されて送信されるであろうことを確認することができます。

注意! PGP/MIME と S/MIME のどちらも RFC822 ヘッダーを署名/暗号化しません。それらは MIME パートにのみ作用します。機密の表題とともにメールを送ってしまう前に、このことを肝に命じておいて下さい。

メッセージを暗号化するとき、Gnus はデフォルトで「署名+暗号化」(メッセージに対して署名と暗号化の両方が行なわれる) モードを使います。特定のメッセージに対してこれを行なわせたくないならば、*mml-secure-message-encrypt-** 命令に接頭引数を与えて (例えば *C-u C-c C-m c p* を使って) 下さい。

上記のセキュリティ命令を実際に使うのはさほど難しくありません。少なくとも、すべての関係するプログラムが適切に通信し合うことを確かめることと比較して。そこで、外部のどんなライブラリーまたはプログラムが必要かについて、およびいくつかの些細で一般的なヒントを述べることにします。

2.7.2 S/MIME を使う

注意! この章は近代的な暗号法、S/MIME、さまざまな PKCS の標準、OpenSSL などの基礎に、あなたが精通していることを想定しています。

Message (それに MML) が S/MIME をサポートするには OpenSSL が必要です。OpenSSL は実際の S/MIME による署名/暗号化の処理を実行します。OpenSSL は <http://www.openssl.org/> で見つかるでしょう。OpenSSL 0.9.6 以降のものが動作するはずですが、バージョン 0.9.5a は証明書からメールアドレスを抽出することができません。またそれは MIME のセパレータに余計な CR 文字を挿入するので、変なメールを送る人だと思われたくなければ、それを使うことを避けたいでしょう。(もっともあなたは S/MIME のメッセージを送った時点で、おそらくその変人コンテンツでの勝利を逃してしまいました。)

暗号化されたメールを送るために個人の証明書は要りません。もっとも Message (MML) は、通信したい相手の人の証明書を必要としますけれど、これは `C-c C-m c s` をタイプしたときに尋ねられます。今のところ、証明書をローカルファイルから取り出すか DNS から取り寄せるかの、二つの方法があります。ローカルファイルを選択した場合、それは PEM 形式による X.509 証明書を含んでいる必要があります。DNS を選んだ場合には、その証明書が格納されているドメイン名を尋ねられます (デフォルトは上手に推測したものです)。私が信じる限り Message (MML) は S/MIME の証明書を DNS から取り寄せる世界初のメール・エージェントなので、あまりたくさんの証明書がそこで見つかることは無いでしょう。少なくとも一つだけは `simon.josefsson.org` ドメイン (訳注: 原著者のサイト) に格納されたものがあるはずですが、LDAP は証明書を配給するためのもっと普及している手法で、それをサポートすることが計画されています。(話は変わりますが、`ldapsearch` をコマンドラインから実行して証明書をファイルに取り込み、それを使うことができますよ。)

メッセージの署名については、ある種の設定無しでは OpenSSL は署名の処理を実行することができません。とりわけ、あなたの秘密鍵 (private key) と証明書がどこに格納されているかを教えてあげる必要があります。MML はその名にふさわしい `smime.el` という OpenSSL への Emacs インターフェイスを使いますが、それはこの設定に使うためのための custom グループを持っています。ですから `M-x customize-group RET smime RET` を試して、眺めてみて下さい。

現在は、CA (または RA) と通信してあなた自身の証明書を生成することはサポートされていません。それに計画もありません。私は Netscape を使って、ネット上にある大きな CA の一つから無料の S/MIME の証明書をもらいました。Netscape は秘密鍵と証明書を PKCS #12 形式で輸出 (export) することができます。OpenSSL を使って、これを以下のように PEM 形式による素 (plain) の X.509 証明書に変換して下さい。

```
$ openssl pkcs12 -in ns.p12 -clcerts -nodes > key+cert.pem
```

`smime-keys` 変数が 'key+cert.pem' ファイルを指し示すようにしなければなりません。今や、あなたは署名されたメッセージを送信できるはずですが。

注意! あなたの鍵は今、暗号化されずにファイルに格納されたので、その扱いには気を付けて下さい。暗号化された鍵をファイルに格納する機能はサポートされています。その場合は OpenSSL を呼び出す前に Gnus がパスフレーズを尋ねるでしょう。どうやってそれを成し遂げるかについては OpenSSL のドキュメントを読んで下さい。暗号化されていない鍵を使う (例えばそれらが安全なストレージにある、またはあなたが安全なシングル・利用者のマシンにいる) のであれば、パスフレーズの入力を要求されたとき、単に `RET` を押して下さい。

2.7.3 PGP/MIME を使う

PGP/MIME は GNU Privacy Guard (<http://www.gnupg.org/>) のような、外部の OpenPGP の実装を必要とします。OpenPGP より以前の実装である PGP 2.x と PGP 5.x もサポートします。PGP の実装への一つの Emacs インターフェイスである (see section "PGG" in

PGG Manual) が含まれていますが、Mailcrypt と Florian Weimer さんの `gpg.e1` もサポートします。See Section 2.7.4 [PGP Compatibility], page 15.

Message はデータを暗号化するために内部的に GnuPG (`gpg` コマンド) を呼びます。また、ある場合 (例えば暗号の解読や署名を行なう場合) には、`gpg` はユーザーのパスフレーズを要求します。現在 `gpg` にパスフレーズを渡す方法として推奨されているのは、`gpg-agent` プログラムを使うことです。

Emacs で `gpg-agent` を使うには、Emacs を起動する前にシェルで以下のコマンドを走らせる必要があります。

```
eval 'gpg-agent --daemon'
```

これは `gpg-agent` を実行するとともに `gpg` が `gpg-agent` と通信できるように、環境変数 `GPG_AGENT_INFO` を設定します。これを `.xsession` または `.bash_profile` に書き込むのは良い考えでしょう。See section “Invoking GPG-AGENT” in *Using the GNU Privacy Guard*.

いったん `gpg-agent` が立ち上がると、それは `gpg` のために必要に応じてパスフレーズを尋ねます。X ウィンドウ・システムでは、パスフレーズを入力するための対話手段が新たに出現します。その対話手段は PIN Entry (`pinentry` コマンド) によって提供されますが、バージョン 0.7.2 のものは単一の tty 上の Emacs とは協調して動作することができません。したがって、もし文字コンソールを使っているのであれば、パスフレーズを `gpg-agent` のキャッシュに前もって入れておかなければならないでしょう。以下のコマンドを、そのために使うことができます。

```
gpg --use-agent --sign < /dev/null > /dev/null
```

Lisp 変数 `pgg-gpg-use-agent` で `gpg-agent` を使うかどうかを制御します。See section “パスフレーズをキャッシュする” in *The PGG Manual*, も参照して下さい。

2.7.4 古い実装との互換性

注: もし `gpg.e1` を使うのであれば、`gpg-temp-directory` で指定されるディレクトリーのパーミッションが必ず 0700 になっているようにして下さい。

あなたの PGP の実装のドキュメントで詳しく述べられているので、あなた自身のための鍵の生成のしかたは、それに譲ります。

もしあなたが古い PGP 2.x の鍵を GnuPG に輸入してあって、PGP 2.x を使っている仲間に署名されかつ暗号化されたメッセージを送りたいとすると、受信者はあなたが送信したものを理解できないことを発見することになるでしょう。一つの解は、代わりに PGP 2.x を使うこと (すなわち、もし `pgg` を使っているのであれば、`pgg-default-scheme` を `gpg` に設定すること) です。GnuPG を使いたいのであれば、`gpg-2comp` という互換を実現するスクリプト <http://muppet.faveve.uni-stuttgart.de/~gero/gpg-2comp/> を入手して、使うことができます。さらに PGP 2.x を使っている仲間に、GnuPG に乗り換えることを説得しても良いでしょう。最後の代替手段として、署名と暗号化の動作を二段階 (分離署名してからメッセージを暗号化する) にすることができます。この振る舞いを変更したいのであれば、`mml-signencrypt-style-alist` 変数をカスタマイズすることができます。例えば:

```
(setq mml-signencrypt-style-alist '(("smime" separate)
                                   ("pgp" separate)
                                   ("pgpauto" separate)
                                   ("pgpmime" separate)))
```

これは署名と暗号化を二段階で行なわせることによって、PGP version 2 が理解できるメッセージを生成します。

(その問題に関するさらなる情報については、<http://www.gnupg.org/gph/en/pgp2x.html> を参照して下さい。)

2.8 いろいろな命令

- C-c C-r* 現在のメッセージをカエサル変換 (別名 rot13) します (message-caesar-buffer-body)。ある範囲にバッファが狭められていた場合は、バッファの見える部分だけを変換します。数値接頭引数は文中のアルファベットを何文字分回転させるかを指定します。デフォルトは 13 です。
- C-c C-e* ポイントとマークの間の文を省略します (message-elide-region)。文章は kill されて、変数 message-elide-ellipsis の値で置き換えられます。デフォルトの省略符号として使われる値は ('[...]') です。
- C-c M-k* 現在位置のアドレスを削除します (訳注: この命令は作者や出どころが不明で、さらに悪いことに不完全な命令に見えます。必ず消したいアドレスの先頭にポイントを置いて使ってください。)
- C-c C-z* 現在位置から署名まで、またはそれが無ければ記事の最後までを kill します (message-kill-to-signature)。
- C-c C-v* メッセージの本文において、領域が設定された場所以外のすべての文を消去します (message-delete-not-region)。
- M-RET* 四本の空行を挿入します。そして、もしポイントが引用文の中間にあったのならば、引用文を整形し直します。
- 例です:
- > これは何かの引用文です。そして、ここにはもっと引用文があります。
- ポイントが「そして」の前にあるときに *M-RET* を押すと、以下のようになります:
- > これは何かの引用文です。
- *
- > そして、ここにはもっと引用文があります。
- ‘*’ はポイントが置かれる場所です。
- C-c M-r* バッファの名前を変更します (message-rename-buffer)。接頭引数が与えられると、新しいバッファ名を入力を要求します。
- TAB* message-tab-body-function が nil でなかったら、それが指定する関数を実行します。さもなければ、text-mode-map か global-map の *TAB* キーに割り当てられている命令を使います。

2.9 送信

- C-c C-c* メッセージを送信し、現在のバッファを bury-buffer します (message-send-and-exit)。
- 訳注: bury-buffer は指定したバッファを現在の Emacs 上に存在するバッファのリストの最後の要素にする関数で、一般に重要度が低くなったバッファに対して実行されます。それを見たい場合は *C-x C-b* を使ってください。ただしバッファの名前が '*sent ... *' に変わっているはずはです。
- C-c C-s* メッセージを送信します (message-send)。

C-c C-d メッセージバッファを bury-buffer して (送信せずに) 終了します (message-dont-send)。

C-c C-k メッセージバッファを kill して (送信せずに) 終了します (message-kill-buffer)。

2.10 メール の 別 名

message-mail-alias-type という変数で、どのような型のメールの別名 (mail alias) の伸張を使うかを制御します。今のところ二つの様式、mailabbrev と ecomplete を使うことができます。もしこの変数が nil になっていると、メールの別名の伸張は行なわれません。

Mailabbrev は '/etc/mailrc' と '~/.mailrc' ファイルを解析することによって動作します。それらのファイルは次のようになっています:

```
alias lmi "Lars Magne Ingebrigtsen <larsi@ifi.uio.no>"
alias ding "ding@ifi.uio.no (ding mailing list)"
```

このような行を '~/.mailrc' ファイルに追加しておけば、To や Cc (など) のヘッダーで 'lmi' と書いて SPC を押すだけで、その別名を伸張してくれるはずです。

メッセージを送るときには伸張は行なわれません—すべての伸張は明示的に (訳注: 実際に自分でメールを書いているときに) 行なわれなくてはなりません。

ecomplete を使っていると、To と Cc ヘッダーにあるすべてのアドレスが、自動的に '~/.ecompleterc' ファイルに格納されます。To と Cc ヘッダーにテキストを書き込んだときに、ecomplete はそこに格納されている値を調べて、どんな補完候補があるかを「エレクトリック」に (訳注: 巧妙なやり方で) 教えてくれるでしょう。それらの補完候補の一つを探すには、*M-n* コマンドでリストを下に読み進んで下さい。リストを昇るのは *M-p*、そして選択するのは *RET* です。

2.11 Emacs にスペルチェックさせる

メッセージを Emacs でスペルチェックするために普及している二つの方法として ispell と flyspell があります。ispell の方は昔からあって、たぶんより一般的なパッケージです。あなたは最初にメッセージを書いた後、例によって全体を ispell に通し、すべての書き損じを修正するでしょう。メッセージを送信するときにそれを自動的に行なうためには、'.emacs' ファイルに以下のようなものを入れて下さい。

```
(add-hook 'message-send-hook 'ispell-message)
```

あなたが別の言語で書く習慣を持っているのなら、変数 ispell-message-dictionary-alist で切り替えることができます。(訳注: 以下の連想リストの各要素で、ヘッダーのどれかに合致する正規表現と辞書を指定します。ただし 'japanese' という辞書はありません (たぶん)。)

```
(setq ispell-message-dictionary-alist
      '(("^Newsgroups:.*\\bde\\. " . "deutsch8")
        (".*" . "default")))
```

ispell はインストールされている 'ispell' プログラムに依存します。

人気があるもう一つの方法は flyspell を使うことです。このパッケージはあなたが書いている最中にスペルチェックを行ない、いろんな方法で間違ったスペルの語を指摘してくれます。

flyspell を使うには、以下のようなものを '.emacs' ファイルに入れて下さい。

```
(defun my-message-setup-routine ()
  (flyspell-mode 1))
(add-hook 'message-setup-hook 'my-message-setup-routine)
```

flyspell はインストールされている 'ispell' プログラムに依存します。

3 変数

3.1 メッセージヘッダー

Message はメッセージを作成する分野の第一線にあって、極めて意欲的です。その使命はニュースとメールのエージェントを統合することです。メールとニュースを一緒に送ることを可能にするためには、メッセージをメールで送ったものとニュースで送ったものがよく似た見栄えになるように、Message はすべてのヘッダーをそれ自身で作成しなければなりません。

`message-generate-headers-first`

t だったら、すべての必要なヘッダーをメッセージを書き始める前に作成します。これは作成するヘッダーのリストであっても構いません:

```
(setq message-generate-headers-first
      '(References))
```

変数 `message-required-headers`、`message-required-mail-headers` および `message-required-news-headers` は、どのヘッダーが必要かを指定します。

変数 `message-deletable-headers` (後述) の設定によっては、いくつかのヘッダーが送信する前に消されて作り直されることに注意して下さい。

`message-draft-headers`

Message が Gnus 上で走っている場合、メッセージバッファはドラフトグループと関連付けられています。 `message-draft-headers` は、そのドラフトグループにドラフトが記録されるときに、どのヘッダーが作成されるべきかを指示します。

`message-from-style`

From ヘッダーをどういう見栄えにするかを指定します。以下の四つの値が使えます:

`nil` アドレスだけです—`'king@grassland.com'`.

`parens` `'king@grassland.com (Elvis Parsley)'`.

`angles` `'Elvis Parsley <king@grassland.com>'`.

`default` 引用符で囲む必要がある場合 (*) は `parens` と同様の見栄えにします。そうでなければ `angles` の場合と同じような見栄えにします。 `parens` の形式を使ってもなお引用符で囲まなければならない場合 (*) は、有無を言わずに `angles` の形式を使います。

訳注*: フルネームの部分が特殊文字を含んでいる場合

`message-deletable-headers`

前もって Message が作成したヘッダーのうち、このリストに含まれているものは投稿する前に削除されます。記事を投稿したとしましょう。それから、いたずら好きなあなたはそれをどこか別のグループに再び投稿することを決心したので、`*post-buf*` バッファに戻って `Newsgroups` 行を編集し、再び送り出したとします。デフォルトでは、この変数は前に作られた古い Message-ID を取り除いて、新しいものを作ることを確実にします。もしこれが行なわれないと、おそらく帝国全体が滅亡して無政府状態がはびこり、猫が二本の足で歩き始めて世界を支配するでしょう。伝え聞くとくるとよれば。

`message-default-headers`

この文字列はすべてのメッセージバッファのヘッダーの最後に挿入されます。

`message-subject-re-regexp`

メッセージへの応答には 'Re: ' で始まる表題があります。これは英単語の " response " の略ではありません。ラテン語で「それに応答して」(in response to) という意味です。無教養な馬鹿者どもはこの事実をとり損ねて、代わりに忌まわしい 'Aw: ' (antwort) や 'Sv: ' (svar) を使うように、彼らのソフトウェアを「国際化」しました。それは無意味だし邪悪です。しかし、あなたはこれらの邪悪な道具を使う利用者と対応しなければならぬかもしれません。そういう場合には、この変数をそれらの接頭語に合致する正規表現に設定することができます。私ですか？ 私は規格に従わないメールはただ捨て去っているだけです。

これは、返事をするときにそれらのヘッダーに対処するための値の例です：

```
(setq message-subject-re-regexp
  (concat
    "[ \t]*"
    "\\("
    "\\("
      "[Aa][Nn][Tt][Ww]\\.|?\\|" ; antw
      "[Aa][Ww]\\|" ; aw
      "[Ff][Ww][Dd]?\\|" ; fwd
      "[Oo][Dd][Pp]\\|" ; odp
      "[Rr][Ee]\\|" ; re
      "[Rr][\311\351][Ff]\\.|?\\|" ; ref
      "[Ss][Vv]" ; sv
    "\\)"
    "\\(\\[[0-9]*\\)\\)"
    ":[ \t]*"
  "\\)"
  "*[ \t]*"
))
```

`message-subject-trailing-was-query`

表題の行にぶら下がっている '(was: <古い表題>)' をどうするかを制御します。nil だったら表題をそのままにしておきます。ask というシンボルだったら、どうするかを利用者に尋ねます。表題が `message-subject-trailing-was-ask-regexp` に合致する場合だけが、`message-subject-trailing-was-query` が t だったら、常にぶら下がった古い表題をはぎ取ります。その場合は `message-subject-trailing-was-regexp` が使われます。

`message-alternative-emails`

あなたの第二、第三のメールアドレスに合致する正規表現です。元の記事の To、Cc または From ヘッダーにあって、この変数に合致する最初のアドレスが、デフォルトの From の値を置き換えて、出て行くメッセージの From 欄として使われます。

例えばあなたが john@home.net および john.doe@work.com という第二の電子メールアドレスを持っていて、それらに宛てて送られてきたメッセージに返信するときに、それらを From 欄で使いたければ、この変数を次のように設定すれば良いでしょう：

```
(setq message-alternative-emails
  (regexp-opt '("john@home.net" "john.doe@work.com")))
```

この変数は、投稿様式 (posting styles) や message-setup-hook を実行することによって設定されるどんなものよりも優先します。

message-allow-no-recipients

Gcc と Fcc 以外に受取人がいなかった場合 (訳注: To, Cc, Newsgroups などが空だった場合) に、何をするかを設定します。always だったら送信できますが、never だったら送信できません。ask (それがデフォルト) だったら、どうするかを尋ねられます。

message-hidden-headers

正規表現、正規表現のリスト、または最初の要素が not で残りが正規表現であるリストです。メッセージを作成しているときに、どのヘッダーを隠したままにしておくかを決めます。

```
(setq message-hidden-headers
      '(not "From" "Subject" "To" "Cc" "Newsgroups"))
```

それらのヘッダーは、それら以外の部分にバッファを狭めること (narrowing) によって隠されます。M-x widen を使うことによって、それらが見えるようにすることができます。

message-header-synonyms

似た意味を持つヘッダー名のリストのリストです。例えばこのリストが Cc と To を要素に持つリストを含んでいると、メッセージがすでに受信者に Cc されている場合、message-carefully-insert-headers は To ヘッダーを挿入しません。

3.2 メールヘッダー

message-required-mail-headers

この変数の構文については Section 3.4 [News Headers], page 23 を参照して下さい。デフォルトは (From Subject Date (optional . In-Reply-To) Message-ID (optional . User-Agent)) です。

message-ignored-mail-headers

メールを出す前に取り除かれるヘッダーの正規表現です。デフォルトは
 ‘^[GF]cc:\\|^Resent-Fcc:\\|^Xref:\\|^X-Draft-From:\\|^X-Gnus-Agent-Meta-Information:’ です。

message-default-mail-headers

この文字列はメールとして初期化されたすべてのメッセージバッファの、ヘッダーの最後尾に挿入されます。

message-generate-hashcash

メッセージのための ‘X-Hashcash’ ヘッダーを計算して付加すべきかどうかを指示する変数です。See section “Hashcash” in *The Gnus Manual*. opportunistic にすると、ユーザーを待たせない場合に限り、ヘッダーを作ります。

3.3 メール変数

message-send-mail-function

現在のバッファをメールとして送るために使われる関数です。デフォルトは message-send-mail-with-sendmail、またはシステムによっては

smtpmail-send-it です。他に message-send-mail-with-mh, message-send-mail-with-qmail, message-smtpmail-send-it および feedmail-send-it が使えます。

message-mh-deletable-headers

ほとんどの版の MH は、この変数に設定されているヘッダーを含んでいるメッセージを食われるのを嫌います。この変数が nil でない (これがデフォルトですが) なら、これらのヘッダーは MH を介してメッセージを送る前に取り除かれます。あなたの MH がこれらのヘッダーを扱うことができるのであれば、nil に設定して下さい。

message-qmail-inject-program

qmail-inject プログラムがある場所です。

message-qmail-inject-args

qmail-inject プログラムに渡す引数です。これは文字列のリストで、それぞれの引数は一つの文字列でなければなりません。これは関数でも構いません。

例えば、メールが弾かれてしまった場合の正しい戻り先を指定したり、メーリングリストのサーバーのアドレスの仕様規定に対処するために“ envelope sender ”のアドレスを設定したい場合は、この変数を ‘(“-f" "you@some.where") にすれば良いでしょう。

訳注: “ envelope sender ”はメールを送信するときに MTA に渡す真の送信者のアドレスで、ヘッダーの ‘From:’ 行に書くものとは別です。

message-sendmail-f-is-evil

nil ではない値にすると、sendmail のコマンド行に ‘-f username’ を付加しません。そうすることは、付加するようしておくより邪悪ですらあるでしょう。

訳注: デフォルトでは“ envelope sender ”を指定するために付加します。sendmail のデフォルトの動作では、それを指定されると「真の送信者が書き換えられた」という意味にも解釈されることが書かれた ‘X-Authentication-Warning:’ ヘッダーを追加します。

message-sendmail-envelope-from

message-sendmail-f-is-evil が nil のとき、この文字列で SMTP エンベロープで使うアドレス (“ envelope sender ”) を指定します。nil だったら user-mail-address を使います。header というシンボルだったら、メッセージの ‘From’ ヘッダーを使います。

message-mailer-swallows-blank-line

システムのメイラーがヘッダーと本文と一緒にしてしまう場合は nil ではない値に設定して下さい。(SunOS 4 において sendmail がリモートモードで動作する場合は該当します。) 値は、障害が実際に起きるかどうかをテストするための式にすべきです。

訳注: 具体的には、本文の第一行目以降にヘッダーのようなテキストがあると、それらがヘッダーの一部だと見なされてしまう問題です。

message-send-mail-partially-limit

message/partial として送信されるメッセージのサイズの制限です。それを越えたらメッセージを分割して送るべきメッセージの大きさの下限を、文字数で換算した値です (訳注: 日本語的には「下限」ではなく「上限」)。nil だったら、サイズは無制限になります。

3.4 ニュースヘッダー

`message-required-news-headers` はヘッダーのシンボルのリストです。これらのヘッダーは自動的に作成されるか、もしくはそれが不可能であれば (訳注: 値が自動で定まらなければ)、利用者に入力してもらうことを要求します。以下のシンボルが使えます:

From この必須のヘッダーは `message-make-from` 関数によって作られます。それは変数 `message-from-style`, `user-full-name`, `user-mail-address` に依存します。

Subject この必須のヘッダーは、まだ存在しない場合は入力を求められます。

Newsgroups この必須のヘッダーは、記事を投稿するニュースグループを指定します。まだ存在しない場合は入力を求められます。

Organization このあっても無くても良いヘッダーは、`message-user-organization` 変数に応じた値が作られます。この変数が `t` だったら `message-user-organization-file` が使われます。この変数は文字列でも良いし (その場合はその文字列が使われます)、関数であっても構いません (その関数は引数無しで呼ばれ、文字列を返さなければなりません)。

Lines このあっても無くても良いヘッダーは `Message` が計算して作ります。

Message-ID この必須のヘッダーは `Message` によって作成されます。日付、時刻、(ローカル部のための) 利用者名、およびドメイン部に基づいたユニークな ID です。ドメイン部については、有効な FQDN (完全に条件を満たしたドメイン名) らしいものが見つからない場合、`message` は `message-user-fqdn`, `system-name`, `mail-host-address` および `message-user-mail-address` (すなわち `user-mail-address`) を (この順で) 探します。

User-Agent このあっても無くても良いヘッダーは、ローカル変数 `message-newsreader` に従って作られます。

In-Reply-To このあっても無くても良いヘッダーは、返答しようとしている記事の `Date` と `From` ヘッダーを元に作られます。

Expires このあろうが無かろうが本当にどうでも良いヘッダーは、`message-expires` 変数に従って挿入されます。これを使うことは強く非難されているので、自分が何をしているかをわかっていないなら、使うべきではありません。

Distribution このあっても無くても良いヘッダーは、`message-distribution-function` 変数が指定する関数で作ります。これを使うことは非難されていて、非常に誤解されたヘッダーです。

訳注: `message-distribution-function` のデフォルト値は `nil` なので、そのままではこれを指定しても `'Distribution:'` ヘッダーは挿入されません。 `C-c C-f C-d` 命令を使って、手で記入することはできます。ただし配送範囲の制限はニュースサーバーが管理すべきであって、利用者が記入する必要は普通は無いはずです。

Path このあろうが無かろうが本当にどうでも良いヘッダーは、おそらく決して (利用者が) 使ってはいけないものです。しかしいくつかのとても古いサーバーは、このヘッダーが

存在することが必要なのです。message-user-path 変数が、この Path ヘッダーをどういう見栄えにするかをさらに制御します。nil だったらサーバー名を端点 (leaf node) として使います。文字列だったら、その文字列を使います。それが文字列でも nil でもなかったら、利用者の名前だけを使います。しかし、この変数をいじくらなければならなくなる機会は非常に少ないでしょう。

加えて、このリストに cons を入れることができます。この cons の CAR はシンボルでなければなりません。このシンボルの名前はヘッダー名です。また CDR は、このヘッダーの値としてそのまま入れられる文字列か関数のどちらかです。例えば Mime-Version: 1.0 を挿入したい場合は、リストに (Mime-Version . "1.0") を入れなければなりません。もし滑稽な引用文を挿入したいのなら、(X-Yow . yow) のようなものをリストに入れることができるでしょう。そうすると、関数 yow が引数無しで呼ばれます。

CAR が optional である cons をリストが含んでいる場合は、その cons の CDR が nil でないときだけ (その CDR が) 挿入されます。

このリストからある項目を消したいときは、以下の Lisp の切れ端が役に立つでしょう。他の要素を削除したいときはそれに合わせて下さい。

```
(setq message-required-news-headers
      (delq 'Message-ID message-required-news-headers))
```

出て行くニュース記事をカスタマイズするための他の変数:

message-syntax-checks

出て行くメッセージの、どの構文の検査をすべきではないかを制御します。例えば、長い署名の検査を禁止するには、このリストに

```
(signature . disabled)
```

を加えて下さい。

有効な検査は以下の通りです (訳注: これらの検査の一部はメールでも行なわれます):

approved 記事に Approved ヘッダーがあるかどうかを調べます。それは司会者のような人だけが含めるはずのものです。

continuation-headers

空白で始まらない継続したヘッダー行があるかどうかを調べます。

control-chars

使ってはいけない文字を調べます。

empty

記事が空かどうかを調べます。

existing-newsgroups

Newsgroups と Followup-to ヘッダーに記入されているニュースグループが存在するかどうかを調べます。

from

From ヘッダーがまともかどうかを調べます。

illegible-text

本文に印字できない文字があるかどうかを調べます。

invisible-text

バッファーに見えないテキストがあるかどうかを調べます。

long-header-lines

長すぎるヘッダー行を調べます。

- `long-lines` 本文の中の長すぎる行を調べます。
- `message-id` Message-ID が構文的にまともかどうかを調べます。
- `multiple-headers` 複数の同じヘッダーの存在を調べます。
- `new-text` メッセージに新しい文があるかどうか (訳注: 引用ばかりでないかどうか) を調べます。
- `newsgroups` 空でない Newsgroups ヘッダーがあるかどうかを調べます。
- `quoting-style` 最後の引用部分に続くテキストがあるかどうかを調べます。
- `repeated-newsgroups` Newsgroups と Followup-to ヘッダーで、同じグループ名が繰り返し使われているかどうかを調べます。
- `reply-to` Reply-To ヘッダーがまともかどうかを調べます。
- `sender` From ヘッダーが変だったら、新しい Sender ヘッダーを挿入します。
- `sendsys` 'Sendsys:' か 'Version:' ヘッダーがあるかどうかを調べます (訳注: いずれもニュースの管理人だけが使うものです)。
- `shoot` Message-ID ヘッダーのドメイン項がまともかどうかを調べます。
- `shorten-followup-to` 投稿するグループの数を Followup-to ヘッダーを付け加えることによって少なくするかどうかを調べます (訳注: 複数のニュースグループに投稿する記事に Followup-to ヘッダーが無い場合に発動され、Followup-to ヘッダーに記入する値の入力を要求します)。
- `signature` 署名の長さを調べます。
- `size` サイズが大きすぎないかどうかを調べます。
- `subject` 空でない Subject ヘッダーがあるかどうかを調べます。
- `subject-cmsg` ニュースのコントロールメッセージのような表題があるかどうかを調べます。(訳注: 表題が 'cmsg' で始まるもので、ニュースの管理人だけが使います。一般の利用者がニュース記事の取り消し (cancel) を行なうときにも使いますが、その場合は、この検査を通らずに、それ専用の枠組みで実行されます。)
- `valid-newsgroups` Newsgroups と Followup-to ヘッダーが構文的に正しいかどうかを調べます。

デフォルトでは、これらすべての条件が調べられます。ただし `message-insert-canlock` が `nil` だったらデフォルトでは検査が行なわれない `sender` を除きます。See Section 1.6 [Canceling News], page 4.

message-ignored-news-headers

投稿する前に取り除かれるヘッダーの正規表現です。デフォルトは
`^Nntp-Posting-Host: \\|^Xref: \\|^ [BGF] cc: \\|^ Resent-Fcc: \\|^
 ^X-Draft-From: \\|^X-Gnus-Agent-Meta-Information:’` です。

message-default-news-headers

この文字列はニュースとして初期化されたすべてのメッセージバッファの、ヘッダーの最後尾に挿入されます。

3.5 ニュース変数**message-send-news-function**

現在のバッファをニュースとして送るために使われる関数です。デフォルトは `message-send-news` です。

message-post-method

できあがったニュースメッセージを投稿するために使われる Gnus の「選択方法」(詳細は Gnus マニュアルを見て下さい) です。

3.6 挿入するための変数**message-ignored-cited-headers**

この正規表現に合致するすべてのヘッダーが、引用のために yank されたメッセージから取り除かれます。デフォルトは `.’` で、すべてのヘッダーが取り除かれるということです。

message-cite-prefix-regexp

行の引用接頭語として見なすことができるものに最大限に合致する正規表現です。

message-citation-line-function

引用行を挿入するために呼ばれる関数です。デフォルトは `message-insert-citation-line` で、これは引用行を次のようにします:

Hallvard B Furuseth <h.b.furuseth@usit.uio.no> writes:

この関数が呼ばれたとき、ポイントはメッセージの本文の先頭に置かれるでしょう。

なお Gnus には、`’writes:’` の上でクリックすると引用されたテキストを隠す機能があります。もしあなたが度を越して引用行を変更してしまうと、それを読む人たちも彼らの Gnus を対応させなければならなくなるでしょう。変数 `gnus-cite-attribution-suffix` を参照して下さい。詳細は See section “記事のハイライト” in *The Gnus Manual*, にあります。

message-yank-prefix

記事に返答かフォローアップをするときは、普通はあなたが応答しようとしている人を引用したいでしょう。引用文の挿入は“ yank ”することによって行なわれ、それぞれの yank された行の前に `message-yank-prefix` が付けられます (すでに引用符 `message-yank-cited-prefix` が付いている行と、`message-yank-empty-prefix` が付けられた空行は対象外です)。デフォルトは `’>’` です。

message-yank-cited-prefix

すでに引用されたテキストを含む記事から yank するとき、それぞれの行にはこの変数の値が前置されます。デフォルトは `’>’` です。`message-yank-prefix` も参照して下さい。

message-yank-empty-prefix

記事からテキストを引用するとき、それぞれの空行にこの変数の値が前置されます。デフォルトは ‘>’ です。この変数を空文字に設定することによって、引用されたテキストを自動的に段落分けすることができます。message-yank-prefix も参照して下さい。

message-indentation-spaces

Yank されたメッセージを字下げするための空白の数です。

message-cite-function

元記事を引用するための関数です。デフォルトは message-cite-original で、これは単純に元のメッセージを挿入して、それぞれの行の頭に ‘>’ をくっ付けます。message-cite-original-without-signature は同様のことをしますが、署名を省きます。Supercite を使うために、この変数を sc-cite-original に設定することもできます。

message-indent-citation-function

メールバッファに挿入された引用文を修正するための関数です。これは関数のリストであることもできます。それぞれの関数は (point) と (mark t) の間で引用を見つけることができます。そしてそれぞれの関数は、修正された引用文の周り (の修正前と同等の場所) にポイントとマークが置かれたままになっているようにしなければなりません。

message-mark-insert-begin

挿入された何らかのテキストの始まりに、印を付けるための文字列です。

message-mark-insert-end

挿入された何らかのテキストの終わりに、印を付けるための文字列です。

message-signature

メッセージバッファの最後に挿入される文字列です。もし t (これがデフォルトです) であれば、ファイル message-signature-file が代わりに挿入されます。もし関数であれば、関数の結果が代わりに使われます。もし式であれば、式の結果が変わりに使われます。この変数が nil だったら、署名はまったく挿入されません。

message-signature-file

バッファの最後に挿入される、署名の入っているファイルです。ディレクトリーが指定されていると、message-signature-directory の値はたとえ設定されていても無視されます。デフォルトは ‘~/signature’ です。

message-signature-directory

署名ファイルを置くディレクトリーの名前です。そういうファイルをたくさん持っているならば、例えば投稿様式 (Gnus posting styles) でそれらを切り替える際に役立ちます。もし nil だったら (それがデフォルト)、message-signature-file がディレクトリーも指定すると見なされます。

message-signature-insert-empty-line

t (デフォルト値) だったら、署名と本文を分離する記号の前に空行が挿入されます。

RFC1036bis は、署名はその前に ‘--’ の三文字だけの行があるべきであると言っていることに注意して下さい。これは受け手が自動的に署名を認識して、処理をすることを簡単にするためです。ですから、その、あなたの美しいデザインを、それが台無しにしていると感じても、それらの文字を取り除かないで下さい。

署名は四行より多くなるべきでは無いということも注意して下さい。ASCII の絵を入れることは、皆にあなたが馬鹿で何も重要なことは言わないということを信じさせるための効果的な方法です。

3.7 いろいろなメッセージ変数

message-default-charset

MIME 文字セット名のシンボルです。メッセージ内の非-ASCII 文字は、この文字セットを使ってエンコードされることになっています。デフォルトは MULE 機能が無い Emacsen では iso-8859-1 です。それ以外では nil で、利用者に尋ねることを意味します。(この変数は MULE 機能が無い Emacs でのみ使われます。) MULE から MIME への置き換え処理の詳細は See section “文字セットの変換” in *Emacs MIME Manual*, を参照して下さい。

message-fill-column

メッセージバッファで行がこの桁数を越えると自動的に折り返しを起こすべき、バッファローカルな値です。nil ではない値 (デフォルト) でメッセージバッファの自動折り返しが ON になります。

message-signature-separator

署名と本文を分離する記号に合致する正規表現です。デフォルトは ‘^-- *\$’ です。

mail-header-separator

ヘッダーを本文から分けるために使われる文字列です。デフォルトは ‘--text follows this line--’ です。

message-directory

メールに関係する多くの処理で使われるディレクトリーです。デフォルトは ‘~/Mail/’ です。メールに関する他のファイル名やディレクトリー名を指定する変数の値は、この message-directory の値を基点にして派生します。

message-auto-save-directory

Gnus が動作していないときに Message がバッファを自動保存するディレクトリーです。nil だったら Message は自動保存を行いません。デフォルトは ‘~/Mail/drafts/’ です。

message-signature-setup-hook

メッセージバッファを初期化するときに行われるフックです。それはヘッダーが挿入された後の、まだ署名が挿入されていないときに実行されます。

message-setup-hook

メッセージバッファを初期化する処理の最後に、まだ yank される文章が挿入されていないときに実行されるフックです。

message-header-setup-hook

ヘッダーを初期化した後に、ヘッダーに範囲を狭めて呼ばれるフックです。

例えば、Gnus を実行していて、すべてのニュース記事とメーリングリストに送るすべてのメッセージに ‘Mail-Copies-To’ ヘッダーを挿入したいのであれば、以下のようになります:

```
(defun my-message-header-setup-hook ()
  (let ((group (or gnus-newsgroup-name "")))
    (when (or (message-fetch-field "newsgroups")
              (gnus-group-find-parameter group 'to-address)
              (gnus-group-find-parameter group 'to-list))
      (insert "Mail-Copies-To: never\n")))))
```

```
(add-hook 'message-header-setup-hook
          'my-message-header-setup-hook)
```

message-send-hook

メッセージを送る前に実行されるフックです。

もし送る前に特定のヘッダーを加えたいのであれば、`message-add-header` 関数をこのフックに使うことができます。例えば:

```
(add-hook 'message-send-hook 'my-message-add-content)
(defun my-message-add-content ()
  (message-add-header "X-In-No-Sense: Nonsense")
  (message-add-header "X-Whatever: no"))
```

この関数は、そのヘッダーがすでに存在している場合はヘッダーを加えません。

message-send-mail-hook

メールメッセージを送る前に実行されるフックです。このフックは非常に遅い時期——メッセージがメールとして実際に送信される直前——に実行されます。

message-send-news-hook

ニュースメッセージを送る前に実行されるフックです。このフックは非常に遅い時期——メッセージがニュースとして実際に送信される直前——に実行されます。

message-sent-hook

メッセージを送った後で実行されるフックです。

message-cancel-hook

ニュース記事の取り消し (`cancel`) を行なうときに実行されるフックです。

message-mode-syntax-table

メッセージモードのバッファで使われる構文テーブルです。

message-cite-articles-with-x-no-archive

非-`nil` だったら、`'X-No-Archive'` が設定されている記事から引用されたテキストを取り除きません。この変数が `nil` になっていても、`undo` のキー操作を行なうことによって取り除かれたテキストを元に戻すことができます。

message-strip-special-text-properties

Emacs はメッセージ作成をいろいろに壊してしまうことができる多くの特別なテキスト属性 (`text properties`) を持っています。この変数が非-`nil` に設定されていると、`message` はそれらの属性をメッセージを作成するバッファから剥ぎ取ります。しかしいくつかのパッケージは、動作するためにそれらの属性が存在していることが必要です。それらのパッケージの一つを使うのならば、このオプションを `off` にして、メッセージが壊れてしまわないことを祈って下さい。

訳注: 日本語入力のためのパッケージである `tamago` 第四版は、まさにテキスト属性を巧みに駆使しています。そのため、この変数が非-`nil` に設定されていても、`message` は `tamago` が使うテキスト属性だけは特別扱いして、剥ぎ取らないようになっています。

message-send-method-alist

メッセージを送出するための方法を指定する連想リストです。それぞれの要素は次の形式になっています:

```
(type predicate function)
```

- type* 方法の呼称を指定するシンボルです。
- predicate* そのメッセージが *type* の型のメッセージであるかどうかを判定するために、引数無しで呼ばれる関数です。関数はそのメッセージがあるバッファで呼び出されます。
- function* *predicate* が *nil* ではない値を返したときに呼ばれる関数です。*function* は一つの引数—接頭引数 (訳注: *C-c C-c* 命令に先立って与えられた接頭引数)—と共に呼ばれます。

デフォルトは次のようになっています:

```
((news message-news-p message-send-via-news)
 (mail message-mail-p message-send-via-mail))
```

message-news-p 関数はそのメッセージがニュース記事のように見える場合に *nil* ではない値を返し、*message-send-via-news* 関数は *message-send-news-function* 変数 (see Section 3.5 [News Variables], page 26) に設定された関数を呼び出して、そのメッセージを送信します。*message-mail-p* 関数はそのメッセージがメールのように見える場合に *nil* ではない値を返し、*message-send-via-mail* 関数は *message-send-mail-function* 変数 (see Section 3.3 [Mail Variables], page 21) に設定された関数を呼び出して、そのメッセージを送信します。

message-send-method-alist の各要素は先頭から順にすべて試されるので、例えば有効な 'Newsgroups:' ヘッダーと 'To:' ヘッダーの両方を持っているメッセージは、まずニュースとして送信された後にメールとしても送信されます。

3.8 送るための変数

message-fcc-handler-function

出て行く記事を保存するために呼ばれる関数です。この関数は記事を格納するためのファイル名と共に呼ばれます。デフォルトの関数は Unix mailbox 様式で保存する *message-output* です。

message-courtesy-message

複合メッセージ (訳注: ニュースとメールの両方で送信するメッセージ) を送るときに、この文字列がメールで送られる複製の方の本文の先頭に挿入されます。もしその文字列が '%s' 書法仕様を含んでいたら、記事が投稿されたニュースグループがそこに挿入されます。この変数が *nil* だったら、そのような親切メッセージは加えられません。デフォルト値は "The following message is a courtesy copy of an article\nthat has been posted to %s as well.\n\n" です。

message-fcc-externalize-attachments

nil だったら、Fcc で保存するメッセージのコピーに通常のパートとしてファイルを添付します。非-*nil* だった場合は、外部パートとしてローカルファイルを添付します (訳注: そのパートをローカルファイルに書き出して、メッセージにはそのファイルの格納場所を示すタグだけを含んでいるパートを付けます)。

message-interactive

nil でなかったら、メッセージを送信するときにエラーが出るのを待って表示します。*nil* だったら、エラーの報告をメールで行ないます。

3.9 メッセージバッファ

Message はあなたがメッセージバッファを要求したときに、ユニークな (唯一無二の) バッファ名で新しいバッファを作ります。メッセージを送ったときに、バッファは普通は削除されません。その名前は変更されて、特定の数の古いメッセージバッファが残されます。

message-generate-new-buffers

メッセージを書くために新しいメッセージバッファを作るかどうかを制御します。次の値が有効です:

`nil` メッセージのやり方でバッファの名前を生成 (例えば `*mail*`, `*news*`, `*mail to whom*`, `*news on group*` など) して、その名前の既存のバッファで編集を続行します。そのようなバッファが無い場合は、新たに作られます。

`unique`

`t` メッセージのやり方で生成された名前で新しいバッファを作ります。これがデフォルトです。

`unsent` `unique` に似ていますが、バッファ名が `"*unsent "` で始まります。

`standard` `nil` に似ていますが、`*mail message*` のような、より単純なバッファ名になります。

function もしこれが関数だったら、その関数を三つの引数—その型、送り先のアドレス、グループ名—と共に呼びます (これらのどれもが `nil` でありえます)。その関数は新しいバッファ名を返さなければなりません。

デフォルト値は `unique` です。

message-max-buffers

この変数はどのくらい古いメッセージバッファを残しておくかを指定します。これより多いメッセージバッファがあれば、一番古いバッファが削除されます。デフォルトは 10 です。この変数が `nil` だったら、古いメッセージバッファは削除されません。

message-send-rename-function

メッセージを送った後で、バッファの名前は、例えば `*reply to Lars*` から `*sent reply to Lars*` に変更されます。もしこれが好きではないのならば、この変数をあなたの好きな方法でバッファの名前を変更する関数に設定して下さい。そもそもバッファ名を変更することを好まないのであれば、次のようにすれば良いでしょう:

```
(setq message-send-rename-function 'ignore)
```

message-kill-buffer-on-exit

`nil` でなければ、終了時にすぐにバッファを削除します。

3.10 メッセージが請け負う仕事

Message がニュース/メールリーダーから使われているときに、リーダーにはメッセージが送られた後で行なう何らかの仕事が課せられることがよくあります。おそらく前のウィンドウ配置に戻したり、記事にそれが返答されたことを表す印を付けるようなことでしょう。

利用者はいろいろな方法でメッセージバッファを終わらせることができます。最も良くあるのは `C-c C-c` で、それはメッセージを送って終了します。他の可能性としては `C-c C-s` があります。これはメッセージを送るだけです。`C-c C-d` はメッセージを後で編集することにして、メッセージ

バッファを `bury-buffer` します (訳注: それを Emacs 上に存在するバッファのリストの最後の要素にして隠します)。そして `C-c C-k` はメッセージバッファを削除します。これらのそれぞれの動作は、それらと関連付けられた請け負い仕事を含んでいるリストを持っています。そのリストは `message-send-actions`, `message-exit-actions`, `message-postpone-actions` および `message-kill-actions` です。

Message はこれらのリストを操作するために `message-add-action` 関数を用意しています。第一引数は加えられる請け負い仕事で、残りの引数はどのリストにこの請け負い仕事を加えるかを指定します。これは Gnus から使う例です:

```
(message-add-action
  '(set-window-configuration ,(current-window-configuration))
  'exit 'postpone 'kill)
```

これはメッセージバッファが削除 (`kill`)、延期 (`postpone`)、終了 (`kill`) されたときに、Gnus のウィンドウ配置を復活させるためのものです。

第一引数に与える「請け負い仕事」は次のどれかです: 普通の関数、`car` が関数で `cdr` が引数のリストであるリスト、または `eval` (評価) される式です。

訳注: たぶん実際のソースコードを見た方が話が早いでしょう。

4 互換性

Message は事実上それ自身の変数しか使わず (*)、古い mail- 変数は考慮に入れませんが、これらの変数を Message が考えに入れるようにさせたいのであれば、以下のものを '.emacs' ファイルに入れれば良いでしょう:

```
(require 'messcompat)
```

これは多くの Message 変数を、それらに対応する mail- 変数の値に基づいて初期化します。

訳注*: 実際には随所で Gnus の変数を使っています。世の中うまくいきません。

5 付記

5.1 応答

メッセージがどこに行くかを決定するために、デフォルトでは以下のアルゴリズムが使われます。

reply 「返答」(reply) は、メッセージを送った人 だけ にメールで応答したいときのものです。受取人は一人しかいません。受取人が誰であるかを決定するために、以下のヘッダーを順番に調べます:

Reply-To

From

wide reply 「広い返答」(wide reply) は、応答しようとしているメッセージに書かれていた 全ての 人々へのメールによる応答です。以下のヘッダーから抽出したすべてのメールアドレスを連結して、出て行く To/Cc ヘッダーを作ります:

From (Reply-To が無い限りこれが使われますが、ある場合は代わりにそれが使われます)。

Cc

To

Mail-Copies-To ヘッダーが存在していたならば、それも宛先のリストに加えられます。このヘッダーが 'never' だったら、From (または Reply-To) のメールアドレスを除外しなければならないということです。

followup 「フォローアップ」(followup) はニュースで送る応答です。以下のヘッダー (優先順位が高い順に並んでいます) で、どこに応答を送るかを決定します:

Followup-To

Newsgroups

もし Mail-Copies-To ヘッダーがあったならば、それが 'never' でない限り、新しい Cc ヘッダーの基として使われます。

6 GNU フリー文書利用許諾契約書

訳注: 非公式な日本語訳 (<http://www.opensource.jp/fdl/fdl.ja.html.euc-jp>) があります。

Appendix A GNU Free Documentation License

Version 1.2, November 2002

Copyright (C) 2000,2001,2002 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

0. PREAMBLE

The purpose of this License is to make a manual, textbook, or other functional and useful document “free” in the sense of freedom: to assure everyone the effective freedom to copy and redistribute it, with or without modifying it, either commercially or non-commercially. Secondly, this License preserves for the author and publisher a way to get credit for their work, while not being considered responsible for modifications made by others.

This License is a kind of “copyleft”, which means that derivative works of the document must themselves be free in the same sense. It complements the GNU General Public License, which is a copyleft license designed for free software.

We have designed this License in order to use it for manuals for free software, because free software needs free documentation: a free program should come with manuals providing the same freedoms that the software does. But this License is not limited to software manuals; it can be used for any textual work, regardless of subject matter or whether it is published as a printed book. We recommend this License principally for works whose purpose is instruction or reference.

1. APPLICABILITY AND DEFINITIONS

This License applies to any manual or other work, in any medium, that contains a notice placed by the copyright holder saying it can be distributed under the terms of this License. Such a notice grants a world-wide, royalty-free license, unlimited in duration, to use that work under the conditions stated herein. The “Document”, below, refers to any such manual or work. Any member of the public is a licensee, and is addressed as “you”. You accept the license if you copy, modify or distribute the work in a way requiring permission under copyright law.

A “Modified Version” of the Document means any work containing the Document or a portion of it, either copied verbatim, or with modifications and/or translated into another language.

A “Secondary Section” is a named appendix or a front-matter section of the Document that deals exclusively with the relationship of the publishers or authors of the Document to the Document’s overall subject (or to related matters) and contains nothing that could fall directly within that overall subject. (Thus, if the Document is in part a textbook of mathematics, a Secondary Section may not explain any mathematics.) The relationship could be a matter of historical connection with the subject or with related matters, or of legal, commercial, philosophical, ethical or political position regarding them.

The “Invariant Sections” are certain Secondary Sections whose titles are designated, as being those of Invariant Sections, in the notice that says that the Document is released under this License. If a section does not fit the above definition of Secondary then it is not allowed to be designated as Invariant. The Document may contain zero Invariant Sections. If the Document does not identify any Invariant Sections then there are none.

The “Cover Texts” are certain short passages of text that are listed, as Front-Cover Texts or Back-Cover Texts, in the notice that says that the Document is released under this License. A Front-Cover Text may be at most 5 words, and a Back-Cover Text may be at most 25 words.

A “Transparent” copy of the Document means a machine-readable copy, represented in a format whose specification is available to the general public, that is suitable for revising the document straightforwardly with generic text editors or (for images composed of pixels) generic paint programs or (for drawings) some widely available drawing editor, and that is suitable for input to text formatters or for automatic translation to a variety of formats suitable for input to text formatters. A copy made in an otherwise Transparent file format whose markup, or absence of markup, has been arranged to thwart or discourage subsequent modification by readers is not Transparent. An image format is not Transparent if used for any substantial amount of text. A copy that is not “Transparent” is called “Opaque.”

Examples of suitable formats for Transparent copies include plain ASCII without markup, Texinfo input format, LaTeX input format, SGML or XML using a publicly available DTD, and standard-conforming simple HTML, PostScript or PDF designed for human modification. Examples of transparent image formats include PNG, XCF and JPG. Opaque formats include proprietary formats that can be read and edited only by proprietary word processors, SGML or XML for which the DTD and/or processing tools are not generally available, and the machine-generated HTML, PostScript or PDF produced by some word processors for output purposes only.

The “Title Page” means, for a printed book, the title page itself, plus such following pages as are needed to hold, legibly, the material this License requires to appear in the title page. For works in formats which do not have any title page as such, “Title Page” means the text near the most prominent appearance of the work’s title, preceding the beginning of the body of the text.

A section “Entitled XYZ” means a named subunit of the Document whose title either is precisely XYZ or contains XYZ in parentheses following text that translates XYZ in another language. (Here XYZ stands for a specific section name mentioned below, such as “Acknowledgements”, “Dedications”, “Endorsements”, or “History”.) To “Preserve the Title” of such a section when you modify the Document means that it remains a section “Entitled XYZ” according to this definition.

The Document may include Warranty Disclaimers next to the notice which states that this License applies to the Document. These Warranty Disclaimers are considered to be included by reference in this License, but only as regards disclaiming warranties: any other implication that these Warranty Disclaimers may have is void and has no effect on the meaning of this License.

2. VERBATIM COPYING

You may copy and distribute the Document in any medium, either commercially or noncommercially, provided that this License, the copyright notices, and the license notice saying this License applies to the Document are reproduced in all copies, and that you add no other conditions whatsoever to those of this License. You may not use technical measures to obstruct or control the reading or further copying of the copies you make or distribute. However, you may accept compensation in exchange for copies. If you distribute a large enough number of copies you must also follow the conditions in section 3.

You may also lend copies, under the same conditions stated above, and you may publicly display copies.

3. COPYING IN QUANTITY

If you publish printed copies (or copies in media that commonly have printed covers) of the Document, numbering more than 100, and the Document's license notice requires Cover Texts, you must enclose the copies in covers that carry, clearly and legibly, all these Cover Texts: Front-Cover Texts on the front cover, and Back-Cover Texts on the back cover. Both covers must also clearly and legibly identify you as the publisher of these copies. The front cover must present the full title with all words of the title equally prominent and visible. You may add other material on the covers in addition. Copying with changes limited to the covers, as long as they preserve the title of the Document and satisfy these conditions, can be treated as verbatim copying in other respects.

If the required texts for either cover are too voluminous to fit legibly, you should put the first ones listed (as many as fit reasonably) on the actual cover, and continue the rest onto adjacent pages.

If you publish or distribute Opaque copies of the Document numbering more than 100, you must either include a machine-readable Transparent copy along with each Opaque copy, or state in or with each Opaque copy a computer-network location from which the general network-using public has access to download using public-standard network protocols a complete Transparent copy of the Document, free of added material. If you use the latter option, you must take reasonably prudent steps, when you begin distribution of Opaque copies in quantity, to ensure that this Transparent copy will remain thus accessible at the stated location until at least one year after the last time you distribute an Opaque copy (directly or through your agents or retailers) of that edition to the public.

It is requested, but not required, that you contact the authors of the Document well before redistributing any large number of copies, to give them a chance to provide you with an updated version of the Document.

4. MODIFICATIONS

You may copy and distribute a Modified Version of the Document under the conditions of sections 2 and 3 above, provided that you release the Modified Version under precisely this License, with the Modified Version filling the role of the Document, thus licensing distribution and modification of the Modified Version to whoever possesses a copy of it. In addition, you must do these things in the Modified Version:

- A. Use in the Title Page (and on the covers, if any) a title distinct from that of the Document, and from those of previous versions (which should, if there were any, be listed in the History section of the Document). You may use the same title as a previous version if the original publisher of that version gives permission.
- B. List on the Title Page, as authors, one or more persons or entities responsible for authorship of the modifications in the Modified Version, together with at least five of the principal authors of the Document (all of its principal authors, if it has fewer than five), unless they release you from this requirement.
- C. State on the Title page the name of the publisher of the Modified Version, as the publisher.
- D. Preserve all the copyright notices of the Document.
- E. Add an appropriate copyright notice for your modifications adjacent to the other copyright notices.
- F. Include, immediately after the copyright notices, a license notice giving the public permission to use the Modified Version under the terms of this License, in the form shown in the Addendum below.
- G. Preserve in that license notice the full lists of Invariant Sections and required Cover Texts given in the Document's license notice.
- H. Include an unaltered copy of this License.
- I. Preserve the section Entitled "History", Preserve its Title, and add to it an item stating at least the title, year, new authors, and publisher of the Modified Version as given on the Title Page. If there is no section Entitled "History" in the Document, create one stating the title, year, authors, and publisher of the Document as given on its Title Page, then add an item describing the Modified Version as stated in the previous sentence.
- J. Preserve the network location, if any, given in the Document for public access to a Transparent copy of the Document, and likewise the network locations given in the Document for previous versions it was based on. These may be placed in the "History" section. You may omit a network location for a work that was published at least four years before the Document itself, or if the original publisher of the version it refers to gives permission.
- K. For any section Entitled "Acknowledgements" or "Dedications", Preserve the Title of the section, and preserve in the section all the substance and tone of each of the contributor acknowledgements and/or dedications given therein.
- L. Preserve all the Invariant Sections of the Document, unaltered in their text and in their titles. Section numbers or the equivalent are not considered part of the section titles.
- M. Delete any section Entitled "Endorsements." Such a section may not be included in the Modified Version.
- N. Do not retitle any existing section to be Entitled "Endorsements" or to conflict in title with any Invariant Section.
- O. Preserve any Warranty Disclaimers.

If the Modified Version includes new front-matter sections or appendices that qualify as Secondary Sections and contain no material copied from the Document, you may at

your option designate some or all of these sections as invariant. To do this, add their titles to the list of Invariant Sections in the Modified Version's license notice. These titles must be distinct from any other section titles.

You may add a section Entitled "Endorsements", provided it contains nothing but endorsements of your Modified Version by various parties—for example, statements of peer review or that the text has been approved by an organization as the authoritative definition of a standard.

You may add a passage of up to five words as a Front-Cover Text, and a passage of up to 25 words as a Back-Cover Text, to the end of the list of Cover Texts in the Modified Version. Only one passage of Front-Cover Text and one of Back-Cover Text may be added by (or through arrangements made by) any one entity. If the Document already includes a cover text for the same cover, previously added by you or by arrangement made by the same entity you are acting on behalf of, you may not add another; but you may replace the old one, on explicit permission from the previous publisher that added the old one.

The author(s) and publisher(s) of the Document do not by this License give permission to use their names for publicity for or to assert or imply endorsement of any Modified Version.

5. COMBINING DOCUMENTS

You may combine the Document with other documents released under this License, under the terms defined in section 4 above for modified versions, provided that you include in the combination all of the Invariant Sections of all of the original documents, unmodified, and list them all as Invariant Sections of your combined work in its license notice, and that you preserve all their Warranty Disclaimers.

The combined work need only contain one copy of this License, and multiple identical Invariant Sections may be replaced with a single copy. If there are multiple Invariant Sections with the same name but different contents, make the title of each such section unique by adding at the end of it, in parentheses, the name of the original author or publisher of that section if known, or else a unique number. Make the same adjustment to the section titles in the list of Invariant Sections in the license notice of the combined work.

In the combination, you must combine any sections Entitled "History" in the various original documents, forming one section Entitled "History"; likewise combine any sections Entitled "Acknowledgements", and any sections Entitled "Dedications." You must delete all sections Entitled "Endorsements."

6. COLLECTIONS OF DOCUMENTS

You may make a collection consisting of the Document and other documents released under this License, and replace the individual copies of this License in the various documents with a single copy that is included in the collection, provided that you follow the rules of this License for verbatim copying of each of the documents in all other respects.

You may extract a single document from such a collection, and distribute it individually under this License, provided you insert a copy of this License into the extracted

document, and follow this License in all other respects regarding verbatim copying of that document.

7. AGGREGATION WITH INDEPENDENT WORKS

A compilation of the Document or its derivatives with other separate and independent documents or works, in or on a volume of a storage or distribution medium, is called an “aggregate” if the copyright resulting from the compilation is not used to limit the legal rights of the compilation’s users beyond what the individual works permit. When the Document is included in an aggregate, this License does not apply to the other works in the aggregate which are not themselves derivative works of the Document.

If the Cover Text requirement of section 3 is applicable to these copies of the Document, then if the Document is less than one half of the entire aggregate, the Document’s Cover Texts may be placed on covers that bracket the Document within the aggregate, or the electronic equivalent of covers if the Document is in electronic form. Otherwise they must appear on printed covers that bracket the whole aggregate.

8. TRANSLATION

Translation is considered a kind of modification, so you may distribute translations of the Document under the terms of section 4. Replacing Invariant Sections with translations requires special permission from their copyright holders, but you may include translations of some or all Invariant Sections in addition to the original versions of these Invariant Sections. You may include a translation of this License, and all the license notices in the Document, and any Warranty Disclaimers, provided that you also include the original English version of this License and the original versions of those notices and disclaimers. In case of a disagreement between the translation and the original version of this License or a notice or disclaimer, the original version will prevail.

If a section in the Document is Entitled “Acknowledgements”, “Dedications”, or “History”, the requirement (section 4) to Preserve its Title (section 1) will typically require changing the actual title.

9. TERMINATION

You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Document except as expressly provided for under this License. Any other attempt to copy, modify, sublicense or distribute the Document is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

10. FUTURE REVISIONS OF THIS LICENSE

The Free Software Foundation may publish new, revised versions of the GNU Free Documentation License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. See <http://www.gnu.org/copyleft/>.

Each version of the License is given a distinguishing version number. If the Document specifies that a particular numbered version of this License “or any later version” applies to it, you have the option of following the terms and conditions either of that specified version or of any later version that has been published (not as a draft) by the Free Software Foundation. If the Document does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published (not as a draft) by the Free Software Foundation.

ADDENDUM: How to use this License for your documents

To use this License in a document you have written, include a copy of the License in the document and put the following copyright and license notices just after the title page:

```
Copyright (C) year your name.  
Permission is granted to copy, distribute and/or modify this document  
under the terms of the GNU Free Documentation License, Version 1.2  
or any later version published by the Free Software Foundation;  
with no Invariant Sections, no Front-Cover Texts, and no Back-Cover Texts.  
A copy of the license is included in the section entitled ‘‘GNU  
Free Documentation License’’.
```

If you have Invariant Sections, Front-Cover Texts and Back-Cover Texts, replace the “with...Texts.” line with this:

```
with the Invariant Sections being list their titles, with the  
Front-Cover Texts being list, and with the Back-Cover Texts being  
list.
```

If you have Invariant Sections without Cover Texts, or some other combination of the three, merge those two alternatives to suit the situation.

If your document contains nontrivial examples of program code, we recommend releasing these examples in parallel under your choice of free software license, such as the GNU General Public License, to permit their use in free software.

7 Index

A

aliases	17
approved	24
attachment	12
attribution line	26
auto-fill	28
Aw	20

C

Cancel Locks	4
canlock	4
charset	28
cited	26
compatibility	33
completion	17
cross-post	10

D

describe-mode	9
Distribution	23

E

ecomplete	17
encrypt	12
Expires	23

F

feedmail-send-it	21
From	23

G

gpg-agent	15
gpg-temp-directory	15

I

i-did-not-set-mail-host-address-so-tickle-me	23
IDNA	12
Importance	10
internationalized domain names	12
ispell-message	17
ispell-message-dictionary-alist	17

L

Lines	23
long lines	25

M

mail aliases	17
Mail-Followup-To	6
mail-header-separator	28
mail-host-address	23
message-add-archive-header	11
message-add-header	29
message-allow-no-recipients	21
message-alternative-emails	20
message-archive-header	11
message-archive-note	11
message-auto-save-directory	28
message-beginning-of-line	11
message-bounce	6
message-caesar-buffer-body	16
message-cancel-hook	29
message-cancel-message	4
message-cancel-news	4
message-change-subject	10
message-citation-line-function	26
message-cite-articles-with-x-no-archive	29
message-cite-function	27
message-cite-original	27
message-cite-original-without-signature	27
message-cite-prefix-regexp	26
message-cross-post-default	10
message-cross-post-followup-to	10
message-cross-post-note-function	10
message-default-charset	28
message-default-headers	19
message-default-mail-headers	21
message-default-news-headers	26
message-deletable-headers	19
message-delete-not-region	16
message-directory	28
message-distribution-function	23
message-dont-reply-to-names	4
message-dont-send	17
message-draft-headers	19
message-elide-ellipsis	16
message-elide-region	16
message-exit-actions	31
message-expires	23
message-fcc-externalize-attachments	30
message-fcc-handler-function	30
message-fill-column	28
message-fill-yanked-message	11
message-followup	4
message-followup-to-function	4
message-forward	5
message-forward-as-mime	5
message-forward-before-signature	5
message-forward-ignored-headers	5
message-forward-subject-author-subject	5

message-from-style	19	message-max-buffers	31
message-generate-hashcash	21	message-mh-deletable-headers	22
message-generate-headers-first	19	message-mode-syntax-table	29
message-generate-new-buffers	31	message-newline-and-reformat	16
message-generate-unsubscribed-mail-followup-to	7, 10	message-news	3
message-goto-bcc	9	message-news-p	29
message-goto-body	11	message-post-method	26
message-goto-cc	9	message-postpone-actions	31
message-goto-distribution	9	message-qmail-inject-args	22
message-goto-fcc	9	message-qmail-inject-program	22
message-goto-followup-to	9	message-reduce-to-to-cc	11
message-goto-from	9	message-rename-buffer	16
message-goto-keywords	9	message-reply	3
message-goto-mail-followup-to	7	message-reply-to-function	3
message-goto-reply-to	9	message-required-headers	19
message-goto-signature	11	message-required-mail-headers	21
message-goto-subject	9	message-required-news-headers	23
message-goto-summary	9	message-resend	5
message-goto-to	9	message-send	16
message-header-format-alist	10	message-send-actions	31
message-header-setup-hook	28	message-send-and-exit	16
message-header-synonyms	21	message-send-hook	29
message-hidden-headers	21	message-send-mail-function	21
Message-ID	23	message-send-mail-hook	29
message-idna-to-ascii-rhs	12	message-send-mail-partially-limit	22
message-ignored-bounced-headers	6	message-send-mail-with-mh	21
message-ignored-mail-headers	21	message-send-mail-with-qmail	21
message-ignored-news-headers	26	message-send-mail-with-sendmail	21
message-ignored-resent-headers	5	message-send-method-alist	29
message-ignored-supersedes-headers	5	message-send-news-function	26
message-indent-citation-function	27	message-send-news-hook	29
message-indentation-spaces	27	message-send-rename-function	31
message-insert-canlock	4	message-send-via-mail	29
message-insert-disposition-notification-to	10	message-send-via-news	29
message-insert-headers	11	message-sendmail-envelope-from	22
message-insert-importance-high	10	message-sendmail-f-is-evil	22
message-insert-importance-low	10	message-sent-hook	29
message-insert-newsgroups	10	message-setup-hook	28
message-insert-or-toggle-importance	10	message-signature	27
message-insert-signature	11	message-signature-directory	27
message-insert-to	10	message-signature-file	27
message-insert-wide-reply	11	message-signature-insert-empty-line	27
message-interactive	30	message-signature-separator	28
message-kill-actions	31	message-signature-setup-hook	28
message-kill-address	16	message-smtpmail-send-it	21
message-kill-buffer	17	message-sort-headers	10
message-kill-buffer-on-exit	31	message-strip-special-text-properties	29
message-kill-to-signature	16	message-subject-re-regexp	20
message-mail	3	message-subject-trailing-was-ask-regexp	20
message-mail-alias-type	17	message-subject-trailing-was-query	20
message-mail-p	29	message-subject-trailing-was-regexp	20
message-mailer-swallows-blank-line	22	message-subscribed-address-file	7
message-make-forward-subject-function	5	message-subscribed-address-functions	6
message-mark-insert-begin	27	message-subscribed-addresses	6
message-mark-insert-end	27	message-subscribed-regexps	6
message-mark-insert-file	11	message-supersede	5
message-mark-inserted-region	11	message-syntax-checks	24
		message-tab	16

- message-tab-body-function 16
 - message-to-list-only 10
 - message-use-followup-to 4
 - message-use-idna 12
 - message-use-mail-followup-to 7
 - message-user-fqdn 23
 - message-user-organization 23
 - message-user-organization-file 23
 - message-user-path 23
 - message-wash-forwarded-subjects 5
 - message-wide-reply 4
 - message-wide-reply-confirm-recipients 4
 - message-wide-reply-to-function 4
 - message-yank-buffer 11
 - message-yank-cited-prefix 26
 - message-yank-empty-prefix 27
 - message-yank-original 11
 - message-yank-prefix 26
 - message-courtesy-message 30
 - MIME 12
 - Mime-Version 24
 - MML 12
 - mml-attach 12
 - mml-dnd-attach-options 12
 - mml-dnd-protocol-alist 12
 - mml-secure-message-encrypt-pgp 13
 - mml-secure-message-encrypt-pgpmime 13
 - mml-secure-message-encrypt-smime 13
 - mml-secure-message-sign-pgp 13
 - mml-secure-message-sign-pgpmime 13
 - mml-secure-message-sign-smime 13
 - mml-signencrypt-style-alist 15
 - mml-unsecure-message 13
 - multipart 12
- N**
- Newsgroups 23
 - non-ascii domain names 12
- O**
- organization 23
- P**
- path 23
- PGP** 12
- PGP/MIME** 12
- Q**
- qmail 22
 - quoting 26, 27
- R**
- Re 20
- S**
- S/MIME 12
 - sc-cite-original 27
 - secure 12
 - Security 12
 - Sender 25
 - sendmail 22
 - sendsys 25
 - sign 12
 - smtpmail-send-it 21
 - spelling 17
 - split large message 22
 - Subject 10, 23
 - Sun 23
 - Supercite 27
 - Sv 20
 - system-name 23
- U**
- undo 9
 - User-Agent 23
 - user-full-name 23
 - user-mail-address 23
- X**
- X-No-Archive 11
 - X-Post 10
- Y**
- yanking 26, 27
 - yow 24

8 Key Index

C

C- <u> </u>	9
C-a	11
C-c ?	9
C-c C-a	12
C-c C-b	11
C-c C-c	16
C-c C-d	17
C-c C-e	16
C-c C-f a	11
C-c C-f C-a	7, 10
C-c C-f C-b	9
C-c C-f C-c	9
C-c C-f C-d	9
C-c C-f C-f	9
C-c C-f C-i	10
C-c C-f C-k	9
C-c C-f C-m	7
C-c C-f C-n	9
C-c C-f C-o	9
C-c C-f C-r	9
C-c C-f C-s	9
C-c C-f C-t	9
C-c C-f C-u	9
C-c C-f s	10
C-c C-f t	11
C-c C-f w	11
C-c C-f x	10
C-c C-i	11
C-c C-k	17
C-c C-l	10
C-c C-m c o	13

C-c C-m c p	13
C-c C-m c s	13
C-c C-m C-n	13
C-c C-m s o	13
C-c C-m s p	13
C-c C-m s s	13
C-c C-M-y	11
C-c C-n	10
C-c C-o	10
C-c C-q	11
C-c C-r	16
C-c C-s	16
C-c C-t	10
C-c C-v	16
C-c C-w	11
C-c C-y	11
C-c C-z	16
C-c M-f	11
C-c M-h	11
C-c M-k	16
C-c M-m	11
C-c M-n	10
C-c M-r	16

M

M-RET	16
M-x message-insert-importance-high	10
M-x message-insert-importance-low	10

T

TAB	16
-----	----

Short Contents

Message	1
1 インターフェース	3
2 命令	9
3 変数	19
4 互換性	33
5 付記	35
6 GNU フリー文書利用許諾契約書	37
A GNU Free Documentation License	39
7 Index	47
8 Key Index	51

Table of Contents

Message	1
1 インターフェース	3
1.1 新しいメールメッセージ	3
1.2 新しいニュースメッセージ	3
1.3 返答	3
1.4 広い返答	4
1.5 フォローアップ	4
1.6 ニュースを取り消す	4
1.7 ニュース記事の置き換え	5
1.8 転送	5
1.9 再送	5
1.10 弾かれたメールメッセージ	6
1.11 メーリングリスト	6
1.11.1 正しい MFT ヘッダーを自動的に作る	6
1.11.2 MFT 投稿の尊重	7
2 命令	9
2.1 バッファに入る	9
2.2 ヘッダー命令	9
2.2.1 ヘッダーに移動するための命令	9
2.2.2 ヘッダーを変更するための命令	10
2.3 移動	11
2.4 挿入	11
2.5 MIME	12
2.6 国際化ドメイン名	12
2.7 セキュリティー	12
2.7.1 署名と暗号化のコマンド	12
2.7.2 S/MIME を使う	14
2.7.3 PGP/MIME を使う	14
2.7.4 古い実装との互換性	15
2.8 いろいろな命令	16
2.9 送信	16
2.10 メールの別名	17
2.11 Emacs にスペルチェックさせる	17
3 変数	19
3.1 メッセージヘッダー	19
3.2 メールヘッダー	21
3.3 メール変数	21
3.4 ニュースヘッダー	23
3.5 ニュース変数	26

3.6	挿入するための変数	26
3.7	いろいろなメッセージ変数	28
3.8	送るための変数	30
3.9	メッセージバッファ	31
3.10	メッセージが請け負う仕事	31
4	互換性	33
5	付記	35
5.1	応答	35
6	GNU フリー文書利用許諾契約書	37
Appendix A GNU Free Documentation License		
	39
	ADDENDUM: How to use this License for your documents.....	45
7	Index	47
8	Key Index.....	51